

# 「呼吸困難」

筑波メディカルセンター 在宅ケア事業 有田圭介

# 呼吸困難の定義

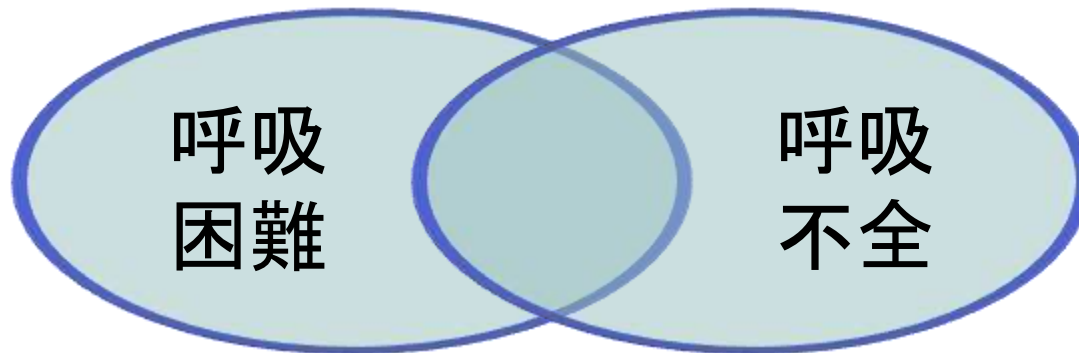
- 呼吸困難の定義

- 「呼吸時の不快な感覚」という **主観的な症状**

the American Thoracic Society 1999

- 呼吸不全の定義

- 「酸素分圧 (PaO<sub>2</sub>) 60Torr以下」という客観的な病態



# 呼吸困難の疫学

- 呼吸困難の頻度

- がんの種類・病期によるが、21～90%

Thomas JR. Lancet Oncol 2002

- 進行がん患者の70%が最期の6週間で呼吸困難を経験している

Reuben DB. Chest 1986

- 予後

- 呼吸困難が出現してからの平均予後 6ヵ月以下

EPEC™-0 Participant' s Handbook

# 呼吸困難の評価

- 患者の**主観的評価**が基準
  - 呼吸回数・酸素飽和度の異常は必ずしも伴わない！
- 呼吸困難以外の症状（咳・痰など）の有無
- 不安の要素の有無
- 既往歴・喫煙歴・職業歴の聴取
- 呼吸数、酸素飽和度、聴診などの身体所見
- 必要に応じて検査
  - 採血・血液ガス分析 胸部レントゲン 心エコー・胸部CTなど

# 呼吸困難の治療

● 抗不安薬追加 鎮静の検討

- 治療目標を相談
- モルヒネ（徐放剤）の定期投与

- モルヒネ（即放剤）または抗不安薬の頓服
- ステロイドの検討

酸素

輸液 500-1,000 mL 以下に減量

咳・痰の対処

STEP1

STEP2

STEP3

# 在宅の薬剤スキル



- 薬剤収納ケース
- PCAポンプ
- 訪問服薬指導

# 「呼吸困難のケア」



# 全人的苦痛

- がん患者の苦痛は多面的であり、全人的に捉えなければならない

